

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テ ー ブル	施策	施策 番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること								備考欄
				市民	シール 数	地域・自治区	シール 数	団体	シール 数	事業者	シール 数	
A	防災・防犯	1-1-1	地域防災力の向上	・自主防災の訓練を今年行う。		・訓練や講演会を実施する。		・学校の避難訓練は抜き打ちにする。	1	・自営消防組の設立		
				・近所に住んでいる人の名前を覚える。		・主に洪水や地震に対応した避難訓練を行う。		・貴志川福祉防災ボランティア会(防災士として、東北 大震災前に立ち上げる)				
				・危険だと思った、感じたことはできる限り報告する。		・どこにどういふ弱者の方が住んでいるのか共有する。	1	・ルール違反は厳しくする。				
				・回覧板が回るぐらいの地域の資源を知る。		・避難場所の耐震工事の徹底		・避難中の助け合いができるようコミュニケーションを とっておく				
				・防災フォーラムや家族会議など積極的に参加する。		・地域のコミュニティを深め、お互いの理解を深める		・防災ボランティア団体の設置。	1			
				・マナーが悪いのは良くない。				・年1回の防災備品の入れ替えイベントを行う				
				・公助・共助・自助では	1							
				・地域ボランティアや集まりに参加し、他の人たちと接 する。								
		1-1-2	効率的で効果的な消防体制の整備	・女性消防団員の増加	1	・避難場所の安全確認をする。		・自前で消防を行う。		・非電化の設備。非ガソリン		
				・夜間の出入りに注意し、行動する。		・防災教育、ハザードマップをつくる。	1					
				・消防団員が現場に到着したときに、速やかに仕事が できるよう可能な範囲で対処しておく。	1	・連絡網をつくる。						
						・改修・改築の際の補助金						
						・ハザードマップなど定期的に配布する。						
		1-1-3	災害に強いまちの形成	・避難訓練には必ず参加する。		・小さな公ではない避難場所づくり		・住宅耐震化への補助金		・災害発生時、積極的に避難スペースを提供する。		
				・2～3日分の水・食事・トイレを準備しておく。		・避難場所には、1週間分の水・食事・トイレを準備して おく。				・耐震構造のある建物を地域に多く建てる。		
						・耐震については、訪問などで徹底すべきではないか。				・防災グッズなどを各自治区などに常備するよう居力す る。		
		1-1-4	防犯・交通安全対策の推進	・自転車保険のへ加入する。		・監視カメラを設置する。		・高速道路の逆走対策をする。				
				・防犯カメラ、監視カメラ設置を積極的にお願いにいく		・障がい者(自閉症者)への理解。		・交通安全講座やテレビでやっているような詐欺の対策 講座を未成年だけでなく、社会人や家庭の人にも参加 してもらう。				
						・街灯がもっと必要だと思う。	1	・自転車保険の義務付け				
						・不審者などに対して夜間の街灯を増やしたり、見回り を行う。						
						・紀の川市更生保護女性会、貴志川分会						
						・防犯の呼びかけを積極的に行う。						
B	健康・医療・福祉	1-2-1	健康づくりと疾病予防	・喫煙場所の選択をする。	1	・タバコについて喫煙場所を確保する。		・日赤奉仕団員の減少がみられるので、新会員の促 進。		・ドクターヘリ		
				・毎日歩くなど体を動かす習慣をつくる。		・毎朝365日地域コミュニティもかねてラジオ体操を実施 する。	2	・食育のまち、紀の川市。食の大切さを伝えるために公 共の施設を利用する。		・支援活動の充実		
				・健診を進んで受ける。		・てくてく体操、ストレッチ教室等の教室が増えてきた。	1	・食中毒など回避できるような病原菌への対策をしっか りする。		・病院内の医師を充実させる。		
				・地域で行っている行事等にはなるべく参加して頭の体 操や体を動かす等気を付ける。		・分煙。喫煙をしないという教育を強化する。		・てくてく体操の啓発。治療より予防。		・障がい者の方やその家族の相談を聞くための事業者 を増やす。		
				・年1回のがん検診を受ける。		・運動場所の充実		・健康維持のため、てくてく体操を行う。				
				・まずは各自でできることをする。								
				・高齢者の健康づくりのサークルはいくつかあるが、ま だまだ参加者が少ない。→自治会、老人会を通して参 加のPRをしてはどうか								
				・各館の健康づくり教室の参加者の「このような効果が あった」等を集約し参加を促す。								
		1-2-2	地域医療の充実	・AEDの設置台数を増やす。		・「高齢者いきいきサロン」を地域でやっていて、一人暮 らしの方に声かけできる場所を作っている。そういう場 所が各地域に必要なと思う。		・フレイルサポーターをしている。地域に出かけて虚弱 (フレイル)チェックを実施しているが、予防が大事であ る。		・ICUや救命救急を設置する。より速い医療の提供を目 指す。		
						・小学校などに高齢者を呼び、昔の話や昔の遊びなど を教えてもらう。高齢者の得意分野を披露できる場づく り。		・介護予防にリハビリテーションで行われる体操などを より多くの人に知ってもらい参加してもらう。	1	・リハビリ施設と同時にジムをつくる。		
						・バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れる。	1					
						・運動を促すための企画をたてる。						
						・病氣予防において、人間ドッグなどに行きやすくなるよ うに呼びかけをしたり大切さを知ってもらう。	1					
		1-3-1	地域福祉のしくみづくりと推進							・地域の方が買い物に利用するショッピングセンターの なかに「健康相談コーナー」を設置する。	1	

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テ ー ブル	施策	施策 番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること								備考欄
				市民	シール 数	地域・自治区	シール 数	団体	シール 数	事業者	シール 数	
		1-3-2	高齢者福祉の充実	・障がい者や高齢者が困っているのであれば手助けする。		・点字ブロックなど、障がい者や高齢者への負担を少なくする。(＝バリアフリー)				・病院などの老人向け施設が増え、高齢者にとってありがたい人が入れない人が多い。		
				・高齢者向けの活動できる場所を設置する。		・居住、食料など生活空間を都市づくりを行って、健康の全国モデルをつくる。				・疾病予防に関して、健康増進のための魅力的な企画。		
						少子高齢化についていろいろ対策をする。				・福祉施設の増大と質の向上。		
						・高齢者や障がい者の方にも働く喜びを感じることができ る仕事を提供する。	1			・高齢者がやりがいや生きがいを持てる場。生きがいあ つてこそ。		
		1-3-3	障害者の自立支援	・まずは障がい者をもつ方への理解が必要である。		・リハビリ施設を増やす。				・障がい者が暮らしやすい施設を運営する。		
				・障がい者に対するには、ノーマライゼーションの視点 の共有が大切である。		・コスモスなどの施設が地域との交流を深める。						
C	子育て環境・ 保育サービス	2-1-1	子育て環境・体制の整備、支援	・子育てに悩んでいる方がいたら声掛けし支えていく。		・責任などをいったんおいて、子どもを家庭以外で預け れる家があればとても助かる方は多いと思う。民泊など で気軽に託児できる施設があればよい。	1	・団体が連携をはかり、種々の団体支援の分析をす る。		・子どもにその地域のフルーツを知ってもらう。		
				・地域ぐるみの子育てをする。(親だけに負担をかけない)		・子育て家庭の支援を給金によって変えるのであれば、 その線引きを認識できるように明確にする。		・学校の統廃合をすすめる中、学童保育等の子育て施 設への利用を行う。(バス送迎が必要)		・出産、子育てをするお金がないという人が少なくない ので、経済的にも制度的にも支えられるように給料を増 やす。育児休暇を認める。		
				・高校生に小学生の登下校時間の見守り協力の時間を つくってもらう。(健全育成にもつながる)		・無償化も大切である。人的サービスの充実。子供と高 齢者が一同一に介して、勉強や遊びを楽しむスペースの 確保。例えば、公民館を利用する。(※有償ボランティア)		・空き家、空き施設を利用し、子育て施設を増やす。		・平等と人権尊重		
				・不妊症に関して、気軽に話せる場が紀の川市にある と知れば、紀の川市に通う方が増える。		・託児など事業レベルでなく個人的なレベルでちょっと 見てもらえるネットワーク。		・大学生の年代の協力(大学との連携)		・子育てに関するボランティアグループの育成を行う。		
				・親しくなれば互いの子育ての悩みが分かり、対処でき る。	1	・幅広い年齢の子どもたちが一緒に行動できることを考 える				・		
				・子育てからはなれたおじいちゃんやおばあちゃんによ る学童		・子育てをするには、地域の協力が必要で自治会に加入 する人が減少しており、自治会加入を促進し、地域で 子どもの見送りを強化する。						
				・子育てなど、わからない人がいれば相談をできる人が いれば安心		・ひとり親家庭の支援を給付金によって変えるのであれ ば、その線引きを認識できるようにしっかりする						
						・となりの大人が出掛ける時に子供を快く預かる						
						・地域の人がみんなで子育てをする						
				・子育ては親と子のつながりを重視する。難しいが、 しっかり心の交流(ぬくもり、愛、その人に寄り添ってい く)		・子どもと老人との遊びや関わり	1					
		2-1-2	子育て環境・体制の整備、支援	・子育てに悩んでいる方がいたら声掛けし支えていく。		・責任などをいったんおいて、子どもを家庭以外で預け れる家があればとても助かる方は多いと思う。民泊感 覚で気軽に託児できる施設があればよい。	1	・団体が連携をはかり、種々の団体支援の分析をす る。		・子どもにその地域のフルーツを知ってもらう。		
				・すでにやっているのですが、紀の川市は子育て支援 が充実しているのに知られておらず、言いふらしていま す。同じ母の立場でもっと広めたら良いと思います。		・寺子屋塾のように地域のいろんな力や技術のある人 が学びの場をつくる。	1	安心して遊んだり、集える公園の整備				
				・親などが忙しい時に遊んであげられたら良い		・子育ての環境や子育てのしづらさがある人に対しての 支援(障害がある母・子などの寄り添いの支援体制)						
				・無償化も大切だが、人的サービスの充実が必要(学 校支援員等)。高齢者が子供たちの面倒を見る。例、共 働きの家の子供が学校に残る場合、地域の高齢者が		・放課後、お年寄りと小学生が同じ場所で過ごせる寺 子屋のような場所が作れれば						
						・地域のおばちゃんによる子育て相談教室の実施(集 会所などで)						
						・困っている子どもたちに声をかけをする。また、悪いこ とをしている子には意見する。		・私立保育園誘致による受入増加。		・保育所は各家庭から近くにあるほうがよい。		
						・地域の子供たちが楽しく遊べるようなものを企画し、実 行できれば、みんなが楽しく、親しみも生まれると思う		・JA等農業団体が子どもが増える対策として農業就労 で生計が成り立つ農業経営を指導する。		・ワークシェアリングをして保母さんを増やし、保母さん の負担を軽減する。	1	
						・小さい子供が歩いているときは見守ってあげる		孤食やひとりで過ごす子どもがないよう、気軽に集まれ る居場所		・母子が安心して働きやすい保育サービス。		
		2-1-2	保育サービスの充実			・子育ては親と子の心のつながりが重要。難しいがしっ かり心の交流(ぬくもり、愛、その人に寄り添っていく)		保育所などで送迎バスなどをやってもらいたい。それな らば、仕事にできる親などが便利。		・0歳児からの子どもの長期保育(土日祝日)		
						・託児など事業レベルではなく、個人的なちょっと見ても らえるようなネットワーク						
						・団地、住宅地で子供の数を把握し、見守れるようにす る						
						・子どもと老人のかかわり	1					
						・安全など地域での見守り				・保育所側が子どもの親を安心させることのできる施設 にする。(体罰などをなくす)		

紀の川市 市民ワークショップ(2017.09.23開催)結果まとめ

テ ー ブル	施策	施策 番号	基本施策	各ステークホルダーの役割・できること								備考欄
				市民	シール 数	地域・自治区	シール 数	団体	シール 数	事業者	シール 数	
F	農業振興	3-1-1	地域の特性を生かした農業振興			・バスピン発祥の地なので子供から高齢者までみんなが楽しめるバスピンをもっと広める。(大会等)		・いろんな年齢が集まるスポーツクラブ。		・スポーツ施設の無料開放日を設けて広める活動。		
						・年齢等に関係なく出来るスポーツ案内		・那賀に住んでいます。スポーツ大会等は桃山までいかなければならないので、交通アクセスが悪い。		・パークゴルフ場の活用、定期的に大会などを行う。		
						・各種目別スポーツイベントを実施し、広報する。		障がい者スポーツの拠点づくり				
				・知り合いなどに農業の良さを教える。		・農業者同士のお互いの交流。		・学校教育の一つとして農業をやってみる。	1	・販売するときに自分が作ったものをアピールする。		
				・家庭菜園で農業のまちをアピール。		・将来的に農業をするメリットを伝えるフォーラムを開く。		・泥棒対策		・農業を通して食文化教育を行う。		
				・安易に住宅地にするのではなく、耕地面積の減少に歯止めをかけてほしい。		・「あら川の桃」みたく、キウイ、はっさく、イチゴ、などでもブランドを増やす。		・新規参加者が部会に入りやすくし、部会内で農業生産のノウハウを共有する。		・農業後継者について行政が相談にのって欲しい。		
				・フルーツのオーナー園を多くする。		・全国の大学生を受け入れ、農業体験をしてもらう。		・果物の成長過程を学べる体験をやり、子供たちの果物への理解を深める。		・ふるさと納税返礼品によるフルーツ王国のPRしてはどうか。		
				・紀の川市の地域の特性、農作物について知る。		・農業振興に対する理解を深めるために働きかけを行う。		・桃畑をドローンで空撮し、ライブ配信することで、紀の川の桃を全世界にPRする。	3	・JA紀の里による果樹(桃、ハ朔、イチジク、みかん、柿…)のブランド化。糖度の統一基準を設ける。		
				・子育ての際に農業の魅力を伝え、後継者を育てる。				・市外、県外のイベントにもっと積極的に参加し、PRする。		・品種改良に力を入れ新しい品種を売り込む。		
								・鳥獣被害の実態を知る広報を行う。		・生産者と販売者の距離を縮め(契約販売など)、生産者の利益を多くして数値化することで農業者の増加を		
								・紀の川市でとれる野菜や果物を使った新しい地酒を作り全国に販売する。	1	・農業者をするにあたって優遇政策を出す。		
								・耕されず「使われていない農地を安く買い取り、農業をしたい人に安く売る。		・企業に協力することで、「農業」を新たなビジネス(アメリカ的な)にできるようにする。	1	
								・農業体験施設の充実。		・農学部が欲しい。	1	
								・赤外線カメラ搭載のドローンを夜間に飛ばし、害獣の導線を明確にし、対策を講じる。		ブランド化のための統一した基準を作成する。	1	
								・食肉処理施設を設ける(京阪神に近くてジビエの材料がこんなにあるのに)				
		3-1-2	均衡の取れた農村や農地の整備	・アミやしかけをしたり犬を飼って、農地が荒らされないようにする。		・学校への農業教育。		・害虫対策。(カミキリムシによるバラ科への被害が深刻)		・農地の区画整備をきっちりして、今後起こりうるであろう耕作放棄地対策を講じる。		
				・害獣対策。		・新たな農業振興団体を構築する。	1					
				・ヤギを飼う。	2							
G	産業振興・雇用・就労	3-1-3	商工業の振興と地域資源を生かした産業振興	・行政依存を少なくし、自主独立(ケガをいとわない)、新しいことに挑む！		・区の工事や修繕は地元業者に委任する。		・各商業団体で、企画コンテストを行い、優秀なものを市に提案し実現させる。		・紀の川市の名産である、フルーツをもっと前向きに出す。		
				・ホスピタリティと語学に挑む(来るべき外国人(観光客)対策)。		・祭りの参加賞や賞品は地元業者で負担する。		・旅行会社とタイアップして他の地域にないようなイベントを実施したり、コースを作る。	1	・大規模農業を組織化する。		
				・他府県に行った場合、おらが紀の川市自慢を行う。		・空き家や休耕地の活用。	2	・商工青年部を活性化させる。		・先行事例(成功例)をマネしない事業展開を。		
				・観光マップ ・案内人 ・もっと地域の良さをアピールする	1	・インバウンド	1	・個人や小規模業者は全ての工程を自分ではできないので、その一部を集約して代行する(めっけもん)。		・農産物を加工して、名産品(ブランド品)を作る		
				・市民として自地域の活性化のために、一人一人が近くのお店を利用したりする。		・若者、障害者などが働きやすい環境、職場を作る。	1	・地域の資源を活かした観光名所(果物狩り、パラグライダー)をアピールする。	2	・店舗を集合させ、一か所で何でも買えるようにする。		
				・他府県へ行った場合、紀の川市の自慢を行う。				・観光の際に素通りされない市内のネットワークを作る。		・特産物を使った色々な食べ物を開発する。		
								・ゲストハウス等の宿泊をする場が必要である。	2	・地域でクラウドファンディングを行う。		
										・大型ショッピングモールは何でも揃って便利であるが、できるだけ地元の商店で買う。		
										・イオンモール出店。	3	
										・個別の売り上げ改善だけではなく、商店街全体の発展を考える。(おかげ横丁、倉敷美観地区)		
										・他府県の成功例をモノマネしない紀の川オリジナルの施策の実践(全国で1つしかやってない)。		
										・世界的に有名な青洲をもっと宣伝して商業につなげる。		
		3-2-1	就労支援の充実と雇用創出の振興	・小さなエリアにおける寄合(コミュニティの強化)への支援を行う。				・地域の資源を活かし、活性できるような仕事の間を作る。		・もっと働く人の考え方を聞いてもらえる働きやすい環境を作る。		
				・給与に「依存することなく、ワークシェアリングをして多くの人が働けるようにする。(特に公共団体)								
				・雇用してもらえる人間になる努力をする。								
H	観光・交流	3-3-1	観光資源を発掘・活用した観光振興	・どういう観光地があるかを知る。		・観光の魅力のある地域資源が必要である。		・市民に「紀の川遺産」と呼べる魅力的な方おられるので、たくさんのお会いその方たちを広め伝えたい。		・ぶるぶるトウトウクを貴志駅からJR和歌山線のどこかの駅まで走らせる。	6	

